

「平成30年北海道胆振東部地震災害復旧における取組み」について

北海道開発局札幌開発建設部 鎌田麻希子

1 はじめに

平成30年9月6日、北海道で初めて最大震度7を観測する北海道胆振東部地震が発生しました。

この地震は、北海道全域で長期間の停電（ブラックアウト）が発生するなど、生活や経済に大きな影響を与えました。特に厚真町では、大量の土砂が川をふさいで水の流れをせき止める「河道閉塞」や、山肌が崩れる「山腹崩壊」などが発生し、多くの尊い命が失われました（図-1、図-2）。

北海道開発局では地域の安全・安心を確保するため、厚真川水系土砂災害復旧事業所（現在の厚真川水系砂防事業所）を開設し、この地震で被災した日高幌内川、チケッペ川、チカエップ川、東和川の災害復旧工事を実施しています。

本稿では、被災地の一日も早い復旧・復興を実現させるため、当局職員や関係機関が一丸となって取り組んだ事例について、ご紹介いたします。



図-1 河道閉塞（日高幌内川）



図-2 山腹崩壊（東和川）

2 災害復旧工事について

被災した箇所では、少しの雨でも崩れた山肌などから雨と共に土砂が流れ出す状況であり、土石流となって下流の地域に被害を及ぼす危険がありました（図-3）。このため、まずは迅速に緊急対策を実施して、砂防えん堤を建設しました。

しかし、将来に亘って地域を守るために恒久対策を実施して、さらに大きな砂防えん堤を建設する必要があります。また、恒久対策を実施するためには、砂防えん堤などの建設に必要な土地を砂防指定地として指定する必要があります。

3 砂防指定地を早期に指定するための取組み

砂防指定地は、事業説明会や地権者との交渉、工事の設計、用地測量、関係機関との協議、必要書類の作成など多くの手続きを経て官報に告示されて指定されます。このため、通常は手続きに2年程度の期間が必要です。

しかし、一日も早い地域の安全・安心を確保するため、私たちは、早期の復旧・復興を目指すとの思いを一つにし、工事の計画や設計を行う職員と砂防指定地の指定手続きを行う職員が、より一層の連携ができるよう部署の垣根を越えて参集し、協力しながら様々なアイディアを持ち寄り、設計や協議などを同時並行で進めると言う、前例のない手法にチャレンジしました。



資料提供 NPO法人土砂災害防止広報センター

図-3 土石流の様子

さらに厚真町や北海道などの関係機関、地域の皆さまのご協力をいただき、半年という短期間で砂防指定地の指定をすることができました。

この取組みが、現在実施中の災害復旧工事に大きく貢献したことは言うまでもありません。

本稿では割愛させていただきますが、砂防指定地の指定に係る取組みの詳細は、第64回（2020年度）北海道開発技術研究発表会の発表論文『厚真川水系直轄特定緊急砂防事業における砂防指定地の指定について』をご参照下さい。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/gijyutu/splaat00000216ue-att/splaat00000216xr.pdf>

4 災害復旧工事の進捗状況

厚真川水系砂防事業所では、厚真町や北海道などの関係機関、地域の皆さまのご協力をいただき、緊急対策を半年ほどの短期間で完了することができました。

その後、恒久対策を開始し、令和3年12月末現在、工事の進捗率は約7割となっており、令和5年度末の砂防えん堤完成を目指して、現在も災害復旧工事を進捗しています（図-4）。

※進捗率は、コンクリートの施工量に基づいています。

5 復興を目指して

斜面や道路などの目に見える部分は復旧が進み、震災の爪痕が見えにくくなってきております。その一方で、特にかけがえのない存在や大切なものを失った方々の心の傷が癒えるまでには、長い時間が必要なのだと思います。

厚真町では様々な取組みを通して、だれ一人として取り残さない住まいと暮らしの再建を進めており、私たちも地域の皆さまのお気持ちに寄り添い、地域の皆



図-4 復旧状況（日高幌内川）

さまと共に歩みを進めていきたいとの思いで、厚真町の取組みの一環である「ATSUMA LOVERS（アツマラバーズ）」や地域の年中行事等へ積極的に参加させていただいております。

これらを通じて地域の皆さまと交流を深めていくほど、一日も早く、そしてしっかりと着実に復旧工事を進めていかなければならないと、思いを強くするところです。

「ATSUMA LOVERS（アツマラバーズ）」については、以下URLをご参照ください。

<http://www.town.atsuma.lg.jp/atsumalovers/>

6 おわりに

災害復旧に向けた一連の取組みは、国、北海道そして厚真町という立場を越えて、それぞれの担当者が被災地の一日も早い復旧・復興を願う気持ちが一つとなったことで、砂防指定地の指定を始めとした早期の対応が実現できたと思います。

今回の取組みは、短期間で災害復旧工事に着手した先進事例として、令和3年度国土交通省国土技術研究会でも高い評価をいただきました。

災害は起きないことが一番ですが、全国のどこかで同様の災害が起きたときに、北海道でなし得たこの取組みが道標となり、被災地の早期の復旧・復興に役立つことになれば幸いに思います。

最後になりますが、砂防事業を進めるためにご協力いただいております地域の皆さまに、心よりお礼を申し上げると共に、今後も厚真町を始めとする被災地の復旧・復興が進むことを祈念して、本稿の結びと致します。



スタッフ（令和元年12月時点）